

函館厚生院看護専門学校 学校関係者評価委員会報告

＜ 2025年度学校関係者評価委員会の開催＞

日 時：2026年3月19日（木）14：00～15：30

委員構成（卒業生、地域住民、地元企業関係者、高等学校関係者、その他教育に関する有識者）

出席者： 5名 欠席者： 1名

学校側出席者：副学校長、教務課長

議 題：

1. 「2025 年度自己点検・自己評価」評価結果
2. 「2025 年度自己点検・自己評価」集計表
3. 「2025 年度自己点検・自己評価」結果による抽出課題と取組み
4. 「2025 年度自己点検・自己評価」実施後の評価結果の分析および課題

1. 会議の位置づけ

学校関係者評価は、本校における教育の質の向上を図るため、教育活動の観察や意見交換等を通じて、自己評価の結果を評価することを目的とする。

2. 2025 年度 自己点検・自己評価の結果報告

自己点検・自己評価は 8 月 1 日～12 日に実施され、回答率はほぼ 100%であった。多くの大項目で肯定的評価が得られた一方、「地域社会・国際交流」「研究」など一部項目では前年度より評価が低下した。

3. 2025 年度 自己点検・自己評価結果の評価

教育理念・教育目的・教育目標

理念・目標に沿った教育活動が継続されており、新カリキュラムの定着が確認された。

教育課程経営

教育課程と授業実践の関連性を意識した取り組みが進み、肯定的評価が維持された。学生の基礎力や倫理観の変化に伴う指導の難しさが課題として挙げられた。

授業・学習・評価課程

授業内容の一貫性は保たれているが、ルーブリック評価のばらつきや授業評価の形骸化が指摘された。学生の学習意欲の差に対応するため、教員間の指導の一貫性が求められている。

経営・管理過程

設置者の意思、組織体制、施設設備は概ね適切と評価された。財政基盤に関する教職員の理解不足や、学生支援体制の強化が課題として示された。

入学

アドミッションポリシーに基づく選抜は継続されているが、定員割れの影響もあり評価が低下した。広報活動の見直しが求められた。

卒業・就業・進学

卒業時の到達状況把握が浸透し評価が向上した。

一方で、例年は約 8 割が法人内医療機関へ就職しているものの、年度によっては市外医療機関を選択する学生が増える場合があり、教育理念との整合性について検討が必要であるとの指摘があった。

地域社会・国際交流

地域連携は一定の成果があるが、国際交流は依然として課題が残る。技能実習生との交流など新たな取り組みは進んでいる。

研究

教員の業務量増加により研究活動の時間確保が難しく、評価が低下した。研究活動を教育改善と関連づけて捉える視点が求められた。

4. 委員からの意見

委員からは、学生の基礎的生活習慣の変化、SNS リテラシー、AI 活用の在り方、地域医療機関との連携、進路選択の多様化、合理的配慮の広がりなど、多角的な視点から意見が寄せられた。

教員からは、学生支援の現状、実習指導の課題、AI 活用の状況、入学前後のミスマッチ防止の取り組みなどが共有された。

5. まとめ

委員会では、教育の質向上に向けた継続的な改善の必要性が確認された。今後も教職員と学校関係者が協働し、地域連携・国際交流・研究活動の活性化を図りながら、将来構想を見据えた学校運営を進めていくことが重要である。

以上